

紹介

○松田玄白・高野長英

吉田 三郎著

昨年來北海出版社に於て計畫せられ逐次刊せられつゝある叢書「日本教育家文庫」本の一編として執筆せられしもの、獨に公にされた中村直勝氏の「北畠親房」などゝその型を同じくするものである。惟ふに親房の場合に於てもさうであつたやうに玄白や長英を以て教育家の列に加へることは、そのこと既に教育といふことに對する一つの新しい見解を表明するものといふべく、即ち著者に於て所謂教育家なるものは實に職業的進學者に限られることなく、廣く自ら眞理を愛し之を求めて倦まず、よく事物の本末を明かにし時世の要求を洞察して眞に國民の進歩に貢獻するところあるものを意味するものと解せられる。従つてその敘述も玄白や長英の所謂教育家としての一面に固執することなく、廣くその時代の背景の上にその生立より始めてその修學の努力と困難を述べ終身新しい實學としての蘭學の興隆に一身を犠牲にして顧みなかつたその全生涯に及び、その間自ら秀れたる教育家としての佛を表はさうとしてゐる。叢書としての限られた紙幅の故にその記述は傳記として必ずしも十分詳密なりと稱するをえないが、

第二十三卷 第一號 一七四

平明なる行文の中によく兩人の理想とその情熱とを再現してそこに自ら現代教育への示唆をも含むところ少くない。この書目らも亦教育的著作といふべきであらう。(四六版二二〇頁口繪二葉、東京・札幌北海出版社刊定價一・二〇)(紫田)

○推古美術の諸問題 「夢殿」第十七冊

大和法隆寺村に居を占め、日本佛教藝術の研究に畢生の努力を致さるゝ佐伯啓祐氏は、先年以來、歴史と美術の冊誌として『夢殿』を發行し、主として法隆寺研究に中心を置きながら延いて弘く佛教藝術の研究に關する學界諸星の諸論考を編輯刊行せられつゝあるが、今回、其の第十七冊として、表記の一冊を公刊せられた。とりあへず其の收載目錄を掲げる。

植田 壽藏

望月 信亨

内藤藤一郎

中井宗太郎

野間 清六

明石 染人

佐藤 虎雄

矢代 幸雄

源 豐宗

日本藝術精神史上に於ける中宮寺本尊
法隆寺金堂藥師如來像に就いて
百濟觀音の新研究
玉虫厨子密陀繪の表現形態
止利佛師に關する考察
我觀天壽國續帳史
推古佛の諸問題
推古佛如來立像に就いて
飛鳥彫刻の様式に就いて
其他、例によつて極めて豊富にして且つ鮮明なる口繪寫眞を約三十葉を添へたもので、其の和木仕立の裝幀から、何となく典雅な風味が流れて居る。